

【狭山市民芸術祭総括】

芸術祭の発信は 地域文化の創造

第6回・市民芸術祭実行委員長 横山美衣

200余名のスタッフ、800名に近い出演・出展者を動員し、のべ3,500名の来場者を迎えた第6回「狭山市民芸術祭」は、2月26日成功裡に幕を閉じました。多大なご尽力を頂いた各部門長を始め関係各位には、厚くお礼を申し上げます。

企画舞台はもちろんですが、テーマ「わが故郷（まち）」を意識した作品が増えたことは、大変意義深いことでした。また、子どもとヤングの参画状況が、舞台・展示とも大きく前進し、芸術祭の一方の意義を発展させてくれました。

今後山積する課題は、会員皆さんの智恵と力を結集し、粘り強く解決してゆかなければなりません。会員の中でも考え方の相違があり、万人にとって納得のゆく方向というのには無理があります。しかしいずれにしても「市民芸術祭」というのは、個々人の作品（舞台）発表の場ではなく、およそ1,000名もの人たちが創り上げる芸術発信の場という自覚を持ちましょう。それはとりもなおさず地域文化の創造に直結します。

今後とも会員ひとりひとりが、狭山市の地域文化の創造を担っているという使命感と誇りを持って、全体のスケールとテーマを意識しながら各自の芸術性を生かして頂ければ、より意義深い、精度の高い芸術祭が発信できると確信しております。

引き続き試行錯誤しながら、気持ちを合わせて歩を進めてまいりましょう。

----- さやま・文化の息吹 -----

狭山市茶道連盟の取り組み

狭山市茶道連盟は、抹茶・煎茶道の先生方がいっしょに活動する団体です。そして、文団連が主催する「青少年文化体験フェスタ」と「市民芸術祭」に毎年参加させていただいております。今年度は、フェスタでのアンケートをもとに初めての試みとして、フェスタ参加者を芸術祭にお誘いして、茶席での「お運び」を体験していただきました。2日間で14名の申し込みをいただき嬉しい限りでした。参加者は腰に帛紗をさげ、小さな手に茶碗をのせて、緊張した面もちで「お運び」をやってくれました。お父さん、お母さん、おばあさんと家族の方もお客様として参加くださいました。きっと、参加を勧めくださったり、送り迎えに時間をやりくりしてくださったりなどのご協力があったことでしょう。

今回の試みには良い点と反省点がありますが、会員一同、茶道という伝統文化を一回きりの体験に終わらせることなく、そこを基点にしていろいろな催しにつなげて日常的に楽しんでいただき、将来に繋げていきたいと願って2日間活動いたしました。

狭山市では、博物館茶室での「体験茶会」や稲荷山公園の「大茶会」など、他市にはない催しがあります。気楽にご参加いただきたいと思います。

もちろん、毎年催す茶道連盟主催の「彩翔亭」での茶会にもどうぞお出かけください。本年は、4月16日に開催いたします。



狭山市茶道連盟代表 土田宗喜

平成17年度 賛助会員の紹介（10）

お箏・三絃邦楽教室

入会随時受付 生田流宮城社直門 三和楽会
会主 竹迫ミナミ

狭山市南入曽 468 - 6 : 2957 - 4621

（有）横田屋製菓

手づくりの季節の和菓子、お弁当

狭山市広瀬 2 - 10 - 5 : 2952 - 2329